

刊行にあたって

広島大学マネジメント学会は、広島大学大学院社会科学研究科マネジメント専攻の所属教員と在学院生および修了生等によって、2000年に設立された学術団体である。この学会が刊行する学術雑誌が『広島大学 マネジメント研究』である。

本誌は第3号（2003年3月刊行）からレフリース制を採用している。投稿論文等については、3名のレフリースが審査し、本誌編集委員会がその採否を決定している。3名のレフリースの審査結果が異なるときには、編集委員会において協議し、より厳しいレフリースの審査結果を採用するよう運用している。

周年事業的には一種の記念号となる第20号において、諸般の事情から、在学院生等の投稿件数が少なく、また諸事情から辞退されこともあり、掲載論文数は、本専攻所属教員ひとりによる1編のみの掲載となってしまい、その点が残念である。もちろん掲載編数やそれらの分量のみが重要なわけではないが、次回号以降においては、必ずや増加することであろうと期待し、またそのための施策を講じる予定である。

本誌は創刊以来、本専攻に所属する専任教員の1年間（暦年）の研究業績を掲載してきた。これは、われわれ国立大学法人教職員が税金と授業料収入などの財源によって雇用されている以上、研究業績の公表はもちろんのこと、その学歴や経歴をひろく社会に公表または開示することは、われわれの「雇い主」またはスポンサーに対する当然の義務との考えからおこなっているものである。

本専攻に在学する院生のほとんどは社会人である。平日昼間は会社や役所などで勤務し、夜間や土曜日に講義やゼミを受け、深夜や祝祭日を中心に論文や研究ノート等を書き上げた院生諸子に対して敬意を表するものである。本誌においては、本年3月をもって修了が認められた院生諸子の修士論文と課題研究の要旨をひとりあたり1頁で掲載している。博士論文要旨については、ひとりあたり2頁で掲載されることとなっているが、まことに残念ながら今回において該当者はいない。掲載されている論文要旨は、本専攻の修了生であり、かつマネジメント学会の会員にかざられる。

本年度中に本研究科本専攻に異動された教員がおひとかたいる。それは徐^そ恩^{うん}之^じさん（マーケティング論）である。また2019年度においては、あらたに人的資源管理論等が専門のかたとサステナビリティ学等が専門のかたのおふたりが2019年4月1日づけで着任予定である。これらのかたがたは、研究業績面はもちろん、教育面においても、かれらのお人柄を含めて、本質的な意味と側面における多様性に富む教育と研究等に貢献していただけるものと期待している。

2019年はマネジメント専攻が設立されて20周年にあたる年である。2018年と2019年に3名の有望なかたがたが同僚になることは本研究科本専攻にとって幸運であるとともに、在学院生や新入生にとっても、無知蒙昧な視野狭窄ではない多様性に富んだ教育と研究指導を受ける機会が増加することになる。

大学とその教員の仕事は、研究とともに教育が最重要であることは、その定義や機能からして当たり前のことである。筆者の個人的な経験からすると、ほんとうに国際的または国内的に評価されている教員（研究者）の多くは、教育等においても熱心で充実した成果をあげているものであるとの認識がある。本専攻に所属している、そして今後所属するすべての教員のみなさんが、充実した研究活動を展開し、また授業科目における標準的かつ充実した講義と演習をされ、本専攻、本研究科そして本学の学術的かつ教育的な評価を高らしめるものと確信している。

現今の国立大学法人とそのなかでも文系領域と社会科学領域がおかれた難局のもとで、教育職員と事務職員そして在学院生と修了生や退学生等が一丸となって、こうした難局を打破する契機とするためにも、本学マネジメント学会と『広島大学 マネジメント研究』がより充実したものとなるように尽力すべきものと考えている。

最後になったが、執筆者や印刷会社との連絡調整（交渉と催促）を担当して下さった鬼頭智子さん（マネジメント専攻長室勤務）に対して謝意を表する次第である。

2019年3月

星 野 一 郎
（広島大学マネジメント学会長）